

第2学年1組 音楽科学習指導案

平成30年9月27日(木) 5校時

授業者 附属新潟小学校 教諭 佐藤 史人
会場 音楽室

1 題材名

いろいろな音を楽しもう ―楽器でおはなし「楽しかった日本海」―

2 本題材の価値

本題材は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の内容A表現(3)の内容を受けて設定した。

A 表現(3) 音楽づくり

ア (イ) どのように音を音楽にしていくかについて思いをもつこと。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(8)

〔共通事項〕ア 音色, リズム イ 反復, 呼びかけとこたえ, 変化

本題材では、音楽を形づくっている要素(本題材では音色, リズム, 強弱, 反復, 呼びかけとこたえ, 変化。以下: 要素)の働きを生かした表現を工夫し、伝えたいと思っている「いかだづくりや日本海での水遊びの体験」に合った音楽をつくり、表現することができるようにする。本題材は、生活科の単元「日本海へこぎだそう」との関連を図った教科等横断的学習単元である。

小学校学習指導要領 生活 2内容(6)

身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり出すことができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

子どもは、生活科の単元「日本海へこぎだそう」の学習で、日本海に浮かぶいかだをつくりたいと願い、「しっかり浮かぶように、ペットボトルをきれいに並べて平らな面をつくろうよ」などと、予想したり考えたりしながらいかだをつくった。その際、ペットボトルをたたいたり、ガムテープを貼る作業を繰り返したりしながら、いかだの頑丈さも感じていた。そして、日本海では、勢いよくいかだを浮かべて海へこぎ出し、波に揺られ、風の音に包まれながら、いかだに乗って、全身で水遊びを楽しむことができた。

このような活動は、身の回りの様々な音に親しむ音遊びに近い活動でもある。そこで、「心に残った『日本海へこぎだそう』の活動を音楽で表現しよう」と提案し、身の回りの様々な音(ペットボトル, ガムテープ等)を使った音楽づくりを設定する。子どもは、ペットボトル等を手にしながら「この音をこうしたら面白くなる」という音楽づくりの発想を得ながら、意欲的に音楽をつくり始める。考えたことを全体でも共有させながら、自分たちの表現に生かすように導いていく。子どもは、思いを伝え合うことと実際に音で試すことを繰り返し、どのように音を音楽にしていくかについて思いをもちながら、心に残った活動を音楽で表現していく。

このように、子どもは、生活科の体験活動を想起しながら音楽づくりを繰り返し、学習活動の質を高めていくことができる。両教科で育成を目指す資質・能力を培う関連的な学習を進めることができることに本題材の価値がある。

3 本題材で目指す姿

要素の働きを生かした表現を工夫し、伝えたい体験に合った音楽をつくる子ども

具体的には、音や音楽について、要素とその働きに着目し、とらえたことと自己のイメージとを関連付けて考えるという「見方・考え方」(以下:「音楽的な見方・考え方」)を働かせ、どのように音を音楽にしていくかについて考える力(音楽科②思考力・判断力・表現力)を発揮して音楽をつくる姿。

例えば、「私たちのグループは、『いかだづくりの場面』の音楽をつくりました。ペットボトルで同じリズムを反復して楽しさを表現しました。途中からガムテープの引っ張る音も重ねて、呼びかけとこたえで表現したら、ガムテープで頑丈になったいかだが完成した音楽をつくることができました」などと、伝えたい体験に合った音楽をつくる姿。

4 本題材で育成する資質・能力、そのために子どもが働かせる「見方・考え方」

単元カード参照

5 指導計画 全16時間

単元カード参照

6 指導の構想

本題材では、まず、「心に残った『日本海へこぎだそう』の活動を、ミュージックステーション(新潟市民芸術文化会館りゅーとぴあでの校内音楽発表会)で発表しよう」という学習の目的を設定する。子どもは「いかだづくりや日本海での水遊びの体験」を音楽で表現したいと考える。

グループで身近にある物（ペットボトル、ガムテープ、トーンチャイム）を使って音楽をつくること、体を動かす活動を取り入れて表現することを条件として、音楽づくりの時間を設定する。この段階では、子どもは、即興的なリズムや短い音で音楽を表現し、意図的にリズムを合わせた音楽の仕組み（反復、呼びかけとこたえ、変化）を使って表現したりしていない（C0）。このような子どもにも、次のように働き掛ける。

働き掛け1

音楽のモデルA（リズムがそろっていない表現）と音楽のモデルB（リズムがそろっていて音楽の仕組みを使った表現）を提示し、感じたことを問う。

音楽のモデルを比較聴取させ、要素（音色、リズム、強弱、反復、呼びかけとこたえ、変化）とその働きによって、感じるイメージが違うことに気付かせるための働き掛けである。

音楽づくりに興味をもち、即興的に音楽表現している子どもに、音楽のモデルを2曲提示する。どちらのモデルもペットボトルとガムテープによる演奏（いかだづくりの場面）であるが、モデルBはリズムがそろっていて、意図的に音楽の仕組み（反復、呼びかけとこたえ、変化）を使った演奏である。子どもは、モデルBのリズムや音楽の仕組みに着目する。

2曲を聴いて感じたことを問う。子どもは、「**音楽的な見方・考え方**」を働かせて、「モデルAはめちゃくちゃに演奏していて何を表現しているのか分からない」「モデルBは呼びかけとこたえで演奏していて、相談しながらいかだをつくっているみたい」などと答え、感じるイメージが違うことに気付く。発言を板書し、モデルBの表現の工夫やそのよさを可視化する。子どもは、「リズムをそろえて、呼びかけやこたえなどを使いながら音楽をつくろう」と問いをもつ。

働き掛け2

条件を整理してから、音楽づくりの時間を設定する。

表現の工夫の見通しをもたせ、音楽づくりをさせるための働き掛けである。

板書したモデルBの表現の工夫やそのよさから、それに伴う学習の条件を整理し、共有する。必要に応じて、身近にある物を使って試し演奏をさせる。子どもは、「呼びかけとこたえでだんだんいかだが出来上がる様子を表現しよう」などと、「**音楽的な見方・考え方**」を働かせて表現の仕方を考える。

その後、音楽づくりの時間を設定する。子どもは、体験の様子とその表現の仕方について考え（**生活科①知識・技能**、**②思考力・判断力・表現力**）、リズムや音楽の仕組みを使った表現を相談したり試したりする（**協働性**）。そして、どのように音を音楽にしていくかについて考える力（**音楽科②思考力・判断力・表現力**）を発揮して、伝えたいと思っている「いかだづくりや日本海での水遊びの体験」に合った音楽をつくり、表現していく。また、できたところまでを教師の前で表現し、教師がタブレット端末で撮影した記録動画を見ながら、出来具合を確認する（**ツール活用能力**）。

働き掛け3

クイズ形式の中間発表会を設定し、気付いたことを問い、音楽づくりの時間を設定する。

自分の作品と友達の作品とを比較聴取させ、作品をよりよく表現するための新たな工夫の視点をもって音楽づくりさせるための働き掛けである。

中間発表する際には、「どの音楽の仕組みを使って表現しているか」というクイズ形式で発表することとする。発表する子どもは、グループの音楽表現を発表する（**音楽科①知識・技能**）。聴く子どもは、自分の作品と違う工夫のよさや、新たな工夫の視点に気付く。中間発表を聴いて気付いたことを問う。子どもは、「呼びかけとこたえで波が揺れている感じが伝わってきました」などと気づき、表現の工夫のよさや新たな工夫の視点を出し合う（**音楽科・生活科①知識・技能**）。そして、それらを生かしてさらに音楽づくりをしたいと考える（**音楽科③態度**）。

再び音楽づくりの時間を設定する。子どもは、自分たちのグループの作品について、さらに要素の働きを生かした表現を考え、伝えたい「いかだづくりや日本海での水遊びの体験」に合った音楽表現を試したり修正したりしながら音楽づくりをする（**音楽科・生活科②思考力・判断力・表現力**）。友達と互いの体の動きや音楽表現をアドバイスし合いながら（**協働性**）、作品を仕上げていく。また、記録動画で出来具合を確認する（**ツール活用能力**）。

働き掛け4

完成発表会を設定する。

音楽づくりの知識・技能を発揮させるための働き掛けである。

グループの作品の完成発表会を設定する。子どもは、音楽づくりに関する技能（**音楽科①知識・技能**）を発揮して、音楽作品を発表する。これまでの一連の学習を通して、**要素の働きを生かした表現を工夫し、伝えたい体験に合った音楽をつくる子ども（Cn）**になる。

働き掛け5

音楽作品の特徴を振り返りシートに記述させる。

音楽づくりで発揮した資質・能力を自覚させるための働き掛けである。

完成発表会を終えた子どもに、振り返りシートを配付する。子どもは、振り返りシートに音楽作品の特徴を記述し（**音楽科①知識・技能**、**②思考力・判断力・表現力**、**生活科①知識・技能**、**③態度**）、音楽づくりで発揮した資質・能力と、その結果どのような作品をつくることができたのかを自覚する。

7 本時の構想

(1) 本時のねらい (本時 11/16時間目)

互いの音楽表現の工夫について、どの音楽の仕組み(反復, 呼びかけとこたえ, 変化)を使って表現を工夫したか, それによってどんなイメージが伝わったかということに気付き, 自分たちのグループの音楽表現に生かすことができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け
<p>1 自分の作品を発表したり, 友達の作品を聴いたりしながら, 新たな工夫の視点をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やったあ。発表会だ。頑張ろう。 ・ 他のグループの演奏も楽しみだね。 ・ 音楽の仕組みは, 反復, 呼びかけとこたえ, 変化だったよね。 ・ 他のグループはどんな表現の工夫をしているのかな。 ・ 上手く演奏するために練習しよう。 ・ 私たち□□グループは, 「いかだづくりの場面」の音楽をつくりました。聴いてください。 (演奏) ☆音楽科①知識・技能 ・ (挙手) 反復を使っていたと思います。 ・ ペットボトルで同じリズムを反復していました。始めは一人で, だんだん人数が増えていって音が大きくなった(強弱)ので, いかだが出来上がっていく感じがしました。 ・ (挙手) 変化もあったと思います。 ・ 途中からガムテープの音(音色)も重なってきたし, 最後の「やったー!バン!」の音(音色)が完成した感じで迫力がありました。 ☆音楽科①知識・技能 ☆生活科①知識・技能 ・ 僕たち▽▽グループは, 「日本海で水遊びの場面」の音楽をつくりました。聴いてください。 (演奏) ☆音楽科①知識・技能 ・ (挙手) 呼びかけとこたえを使っていたと思います。 ・ 一人とみんなのトーンチャイム演奏が, 波がこっちに行ってからザブーンっと返ってくる感じがしました。 ・ (挙手) 変化を使っていたと思います。 ・ 呼びかけとこたえもあったけれど, そこに, 途中からペットボトルのリズムも入ってきたので, 「いかだが上手く浮かんでいて楽しいよ」という感じに聞こえました。 ☆音楽科①知識・技能 ☆生活科①知識・技能 	<p>クイズ形式の中間発表会を設定し, 感じたことを問う。</p> <p style="text-align: right;">【働き掛け3-①】</p> <p>○説明「今日は, 中間発表会をしたいと思います。『どの音楽の仕組みを使って表現を工夫しているか』というクイズ形式の発表会です」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><今日の学習のめあて> 中間発表から新しい工夫のよさを見つけよう</p> </div> <p>※少し練習する時間を設定する。 ※時間の関係ですべてのグループ発表はできないことを確認する。</p> <p>○指示「発表するグループは, どの場面を表現したか説明してから, 演奏を始めてください。それでは, □□グループさん, 発表してください」</p> <p>○指示「分かった人は, 手を挙げてクイズに答えましょう」</p> <p>○発問「その音楽の仕組みを聴いて, どのようなことを感じましたか」 ※出された意見を板書で整理する。 ※強弱や音色など, 音楽の仕組み以外の要素への気付きも取り上げ, 板書する。 ※発表グループにクイズの正解を確認し, 補足があれば説明させる。</p> <p>○指示「次は, ▽▽グループさん, 発表してください」</p> <p>○指示「分かった人は, 手を挙げてクイズに答えましょう」</p> <p>○発問「その音楽の仕組みを聴いて, どのようなことを感じましたか」 ※出された意見を板書で整理する。 ※発表グループにクイズの正解を確認し, 補足があれば説明させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><まとめ> (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>反復</u>しながら人数が増える(強弱) →だんだん出来上がる。盛り上がる。 ・ <u>最後に音を重ねる変化</u> →完成の迫力。 ・ <u>呼びかけとこたえ</u> →波の感じ。 </div>

2 新たな工夫の視点を取り入れながら、音楽づくりをする。

- ・私は、呼びかけとこたえで協力してつくっている感じを表現してみたいです。
- ・僕は、だんだん音が大きくなる表現（強弱）を使って音楽を盛り上げたいです。
- ・私たちは、音の重ね方（音色）と動きを工夫して、もっと表現を変化させたいです。

★音楽科③態度

<□□グループの音楽づくりの例>

- ・呼びかけとこたえも使って表現を工夫しようよ。
- ・そうだね。ガムテープが出てくるところを呼びかけとこたえにしたらどうかな。ペットボトルをきれいに並べてからガムテープを貼っていたから。
- ・なるほど。実際に演奏してみようよ。
(演奏)
- ・いいね。呼びかけとこたえで表現すると、だんだん出来上がってきて楽しい感じもするね。
- ・最後の「やったー！」でペットボトルを鳴らして上に振り上げていたけど、立ち上がったらもっと盛り上がるんじゃないかな。
- ・よし、やってみようよ。
(演奏)
- ・立ち上がるのがそろわないね。どうする。
- ・立ちやすいように、しゃがんだ姿勢で演奏を始めたらどうかな。
- ・よし、始めから演奏してみよう。

★音楽科②思考力・判断力・表現力

★生活科②思考力・判断力・表現力

★協働性

<▽▽グループの音楽づくりの例>

- ・途中のペットボトルのリズムを、だんだん大きく鳴らして反復したらどうかな。波が来てびっくりしてる感じにできそうだよ。
- ・いいね。実際に演奏してみようよ。
(演奏)
- ・ペットボトルの音が入るタイミングを、呼びかけとこたえに合わせよう。演奏がそろって、もっとよくなるよ。
- ・できたね。先生に見せて動画で記録してもらおう。
- ・先生、音楽ができたので、タブレット端末で記録をお願いします。
- ・(動画記録後) 動画を見て確認しよう。

★音楽科②思考力・判断力・表現力

★生活科②思考力・判断力・表現力

★協働性

★ツール活用能力

音楽づくりの時間を設定する。

【働き掛け3-②】

○説明「新たな工夫の視点がたくさん見つかりましたね。自分たちの音楽づくりにも生かれますね」

※補助発問「どの音楽の仕組みを生かしたいですか」(他要素も同様に)

○指示「それでは、新たな工夫の視点を取り入れながら、再び音楽づくりをしましょう」

※補助発問「どんな工夫を考えていますか」「それはどんなイメージを伝えるためですか」

※机間指導しながら、必要に応じて楽器(トーンチャイム等)の奏法を助言する。

※グループのタブレット端末で作品を記録し、タブレット端末を渡す。

※時間があれば、1～2グループにできた作品を発表させる。

(3) 評価

互いの発表から表現の工夫に気付き、新たな工夫の視点をもって、どのように音を音楽にしていくかについて考える力を発揮して、音楽をつくっている。(発言、楽譜シート、記録動画)